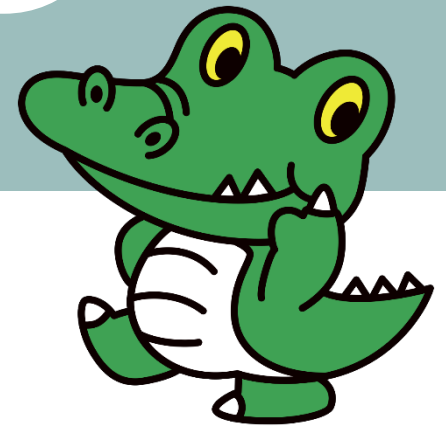


レポートの 不安解消



2023.07.20



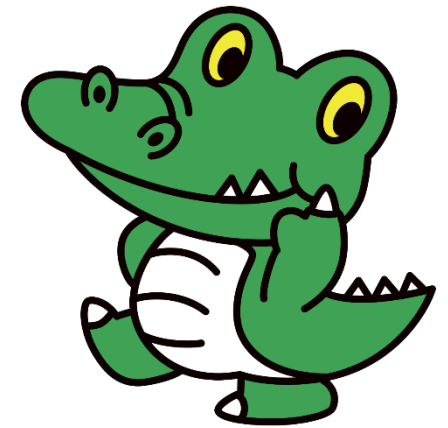
本講習会の目的

- ① レポート執筆にあたる際の**基本的な事項**を確認する
- ② **外国語学部生**としてのレポートの書き方について考える

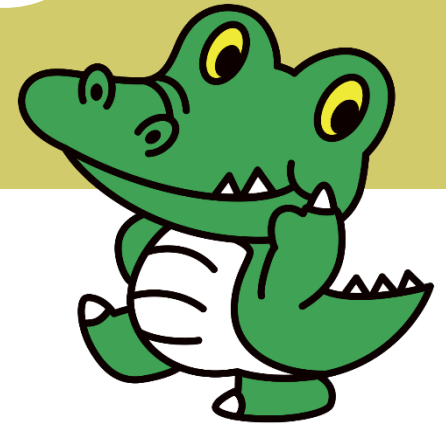
いきなり、難しくない？
疑問の方が多くない？

まずはここから、Q&Aラインナップ

- Q1. だいたいレポートって何だ？
 - 「外国語学部」で求められるレポートって？
- Q2. 何を書いたらいい？
- Q3. どう進めよう？
- Q4. どう書けばいい？ ～割愛～
 - 引用・参考文献の書き方は別の回に参加しよう！
- Q5. じゃあ、やみくもにやったらダメってこと？



レポートって何？
感想文とはどこが
違うんだっけ？



ある程度の決まった作法に
則って書く、学術的文章です



これはレポート？



- ネットでこんなことが書いてありました。
まとめるとこんな感じですよ。

✓ 根拠が確かめられない
✓ それで言いたいことが
分からない

引用



- これについて私はとても面白いと思いました。

Q&A

✓ 主観的な感想になって
しまっている



ダメな例から分かる、必要項目

□論を構成するQ&A

- 感想は要らない、意見だけでも成り立たない

→論じる価値のあることを、背景から簡単に説き起こそう

□他の人に確かめられる形での論拠

- 主張が独りよがりではいけない

→事例や数値データを引きながら、分析・考察を加えよう



どうして感想文じゃいけないの？

□ **大学 = 簡単には答えの出ない問題に取り組む場所**

■ レポート課題で計られる事項

→ いかにか課題の背景や問題点をよく理解しているか

→ 内容についてどれだけ深く調べて考えたか

□ **レポート = (卒業) 論文の段階的な練習**

■ 但し、徐々にステップアップすればよいので、始めから完璧である必要はない

外国語学部で書く レポートって何？

阪大「ワニ博士」
外国語学部の頃



特定言語使用圏の社会・文化
について学んだ結果を示そう



なぜ外国語学部生に レポートが課されるのか？

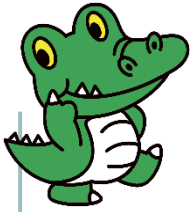
■大阪大学外国語学部

≠単なる語学力（読む・聞く・話す・書く）養成

→ある特定の言語、及び言語が用いられる文化や社会に通じ、
諸地域・異文化間の問題に目を向けられる人材の育成

■特定言語の専門的学習

= 言語圏の文化・社会を含めて知ること



外国語学部の学生にとって レポートとは

- 専攻語の語学力を元に、対象の言語文化における課題について背景を理解し、さらに調べ考え、学びを深めていることを示す場
 - 知識の定着を確認し、応用する
 - 今後の学習や、人生で活かせる考え方を養う

※特定の事柄について調査・執筆する中で身につけた視点や手法は、他の事を考えるときにも役に立つ



外国語学部で扱われる レポートの例

文学系

言語学系

社会学系

教育学系



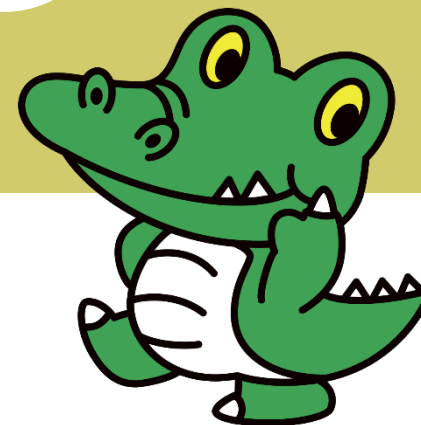
外国語学部で扱われる レポートの例

どのような問題が扱えるのかというのも、調査・執筆の過程で明らかに

- 何についてのレポートか？
 - 課題発表時にテーマが与えられる場合
 - 自由に設定してよいとされる場合
 - 現時点で書けるサイズに落とし込むのがコツ

- どのような引用・参考文献の表記法をとるのか？
 - フォーマットの規定がある場合
 - 特に指示がない場合
 - 授業毎に確認してみるのが無難、講義資料も見てみよう

レポートって
何を書けば
良かったっけ？

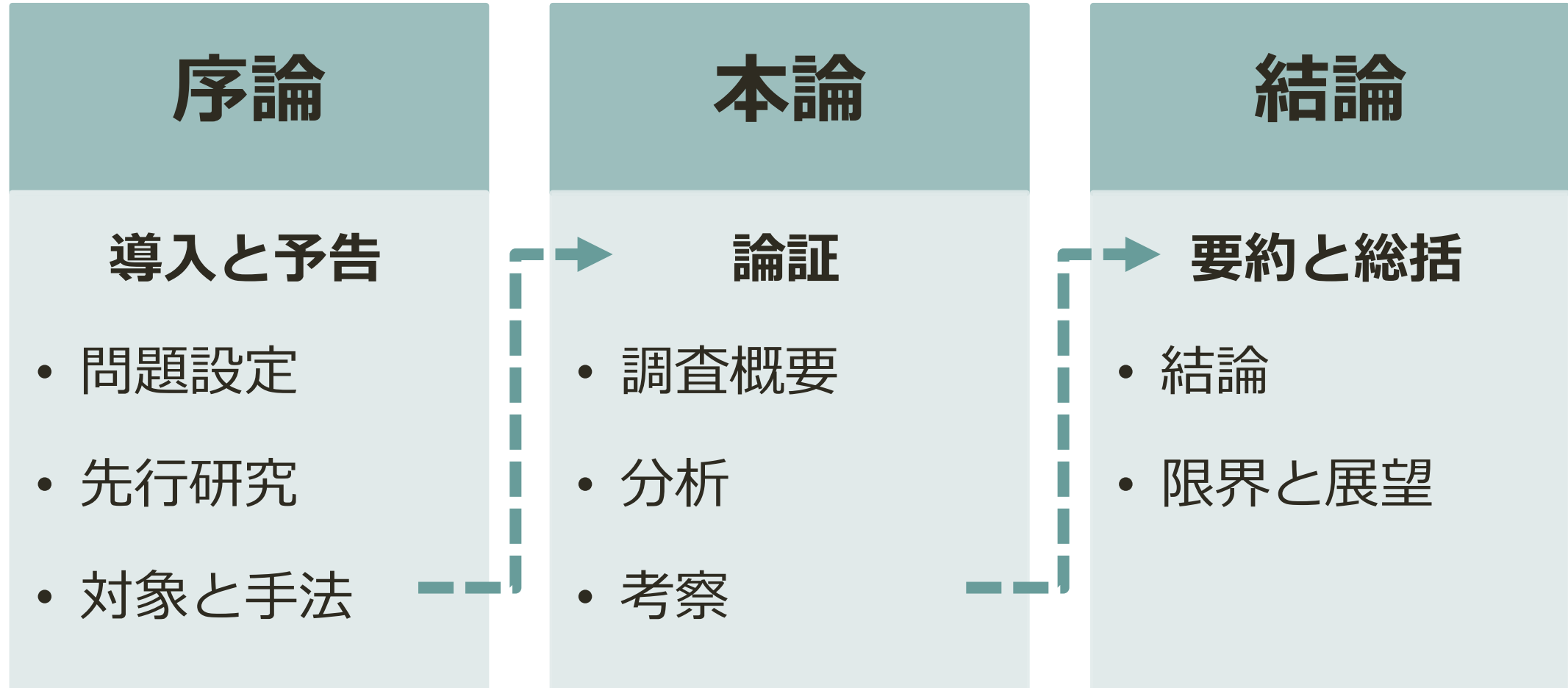


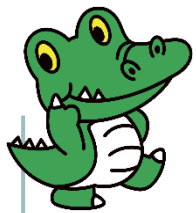
新しく分かったことを伝える
ために、Q&Aと論証が必要です



レポートの構成とは

石黒(2012: 14-17),
佐渡島et al. (2015: 88) 参照





レポートの構成：序論

□ 問題設定（=Q、目的の宣言！）

先行研究との対比

□ 議論の背景

- 動機や経緯は何でもいいが、学術面ではどうでもいい
- 今までと何が違うのか、こそ独自の**アピールポイント**
→例) 不足を指摘、改訂を提案／逸脱事例を検討

□ 手順（=対象と手法）の説明

- 結論に至る過程がブラックボックスではダメ

□ 見解（=A、また構成）の予告

石黒(2012: 14-17, 31),
佐渡島et al. (2015: 88) 参照



レポートの構成：本論

石黒(2012: 14-17),
佐渡島et al. (2015: 88) 参照

□手順（＝対象と手法）の詳説

- 一通りの調査概要を述べる


□分析（＝Aの提示）

- 調査の結果を示し、検める

□考察（＝Aの裏づけ）

- 得られた結果の理由を詰めて、説明する

→序論・本論・結論で内容が少しずつ重複する



参考や傍証
としての
先行研究



レポートの構成：結論

石黒(2012: 14-17),
佐渡島et al. (2015: 88) 参照

□ 結論の報告（=手短なQ&Aのまとめ）

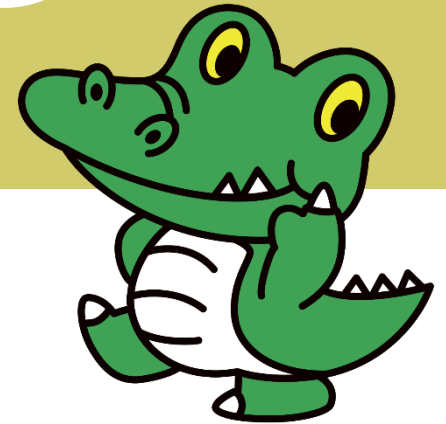
- これまでの論証を要約する

□ 限界・展望の提示

- 本論で扱えずに切り捨てたこと、明らかにできなかったことを今後の課題として、総括する

※レポート課題としては、これらのうち、どの側面が要求されているか考え、取捨選択する

どう進めていけば
いいかな？



要求を分析、資料をヒントに
自分の考えを整理しましょう



課題から要求に見当を見つけよう

- 「今期で扱った中から、自由に選び論じなさい」と指示があった！
 - どのような観点から問えるのか、アタリを見つけよう
 - 授業の復習（レジюме・ノートを見返す etc.）
 - 百科事典や専門の辞典にあたる

二次資料：〈1〉一次資料を見付け出すための検索ツール（書誌、目録、抄録誌、索引誌など）、〈2〉一次資料を編集、整理したり、その内容を取捨選択し、評価を加えたりした資料（百科事典、ハンドブックなど）

"二次資料", 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, <https://japanknowledge-com.osaka-u.idm.oclc.org>, (参照 2022-12-16)



アイデアを練ろう

□ 調べた・分かった・考えていることを整理する

■ まずは**ブレインストーミング**

→ 例えば語でも文でも列挙、次にグループにしてみる

■ 知りたいこと・言いたいことがハッキリしてきたら

→ **Q&A**に作り直してみよう

→ さらに「**なぜなら～**」と**答えられるか**考えよう

→ 5W1Hのうち、どのような情報が傍証になるのか、疑問のボリュームが適切か、考えよう



資料を集めよう

複数のテーマを扱う資料は、
予想と違う棚にある場合が！
探し方も組み合わせてみよう

□情報収集

■物理的な文献にあたる

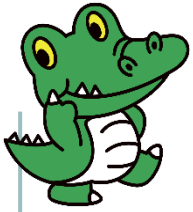
→図書館のHPから検索、**書架**を見て回る、参考文献を辿るetc.

■オンライン・データベースにあたる

→図書館のHPから辿る、先行研究が使っているもの等を確認するetc.

※**大学・国立国会図書館**を頼る

※情報収集の際に、専攻語や英語を使ってみよう



資料を集めよう

□ e.g. **まず何が使えるか？**を知る

→ 学習・研究支援 (<https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/>)

→ 専攻語別・学術情報リンク集

(<https://www.library.osaka-u.ac.jp/gaikoku/links/>)

阪大図書館

□ e.g. **まず何を見たらよい？**を知る

→ パスファインダー (<https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/pathfinder>)

→ リサーチ・ナビ (<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/index.html>)

国立国会図書館



情報収集は何のため？

- インスピレーション、**方向性**が得られる
 - 思いも寄らない考え方、視点、知識、情報などが分かる
 - 行き詰ったときに助けになる
 - 書きたいことから、書けそうなものへ
- Q&Aの**説得力**が高められる
 - 他の人の調べた事例や数値データなどから裏づけられる
 - 思い込みや想像で書かずに客観的な根拠を

先行研究

※ 本筋に強く関係・影響するものを引用しよう！

やみくもにやったら
ダメってこと？



型を知るのは大事、でも手を
動かさないと始まりません



かえって悩んで書けないよ！

□ どこから始めていいか分からない.....

■ 情報を集めているうちに混乱してきた！ ということも

→ できる、書けるところから手をつけよう

→ 進めていくうちに足りない・欲しい箇所も見えてくる

□ もう気合いとパッションで書けちゃったけど？

■ それはすごい！ 見直す時間があるということだ

→ 今までのポイントを押さえると、もっと良くなるはず



とりあえず書き出してもいい？

- まずは**箇条書き**からでもOK！
 - 並べ替えて、話の流れを作ってみよう
→ Q&Aと「なぜなら～」のセットができれば、それが論旨

- 代わりに**何度でも振り返ろう**
 - 上手くいってても、いってなくても間を置くのは大事
→ 未来の自分が見直したり、閃いてくれたりする
→ (理想としては.....) なるべく余裕をもって取り組もう



外国語学部生ならではの強み

- **使える言語が多ければ、情報源だって増える**
 - 世界規模かつ高速でマスに事物が行き交う現代社会
 - 多方面に興味を広げられるはず
 - 普段の生活にネタは転がっているのかも

- **外国語を切り口に他の学問領域とつながっている**
 - ○×学、△□論の名前で勉強したことは使えないかな？
 - 知識のかけ合わせが新しい発見を呼んでくるのかも

参考文献

堀一成, 坂尻彰宏 (2022) 『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門―「学問の扉」に備えて』大阪大学全学教育推進機構. (<https://hdl.handle.net/11094/71454>)

石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本―この1冊できちんと書ける!』日本実業出版社.

佐渡島紗織, 坂本麻裕子, 大野真澄 (編著) (2015) 『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』大修館書店.

CULTURE THROUGH LANGUAGE, LANGUAGE THROUGH CULTURE

**([HTTPS://WWW.SFS.OSAKA-
U.AC.JP/OUTLINES/PRINCIPLES.HTML](https://www.sfs.osaka-u.ac.jp/outlines/principles.html)
2023/07/20)**

